

# 令和6年度岡山県環境保健センター外部評価委員会評価結果の概要

## 1 外部評価委員会の概要

### (1) 開催日時

令和6年9月10日（火）13:30～16:30

### (2) 開催場所

ピュアリティまきび「橘」（岡山市北区下石井2-6-41）

### (3) 外部評価委員

職名	氏名	備考
岡山大学大学院 医歯薬学総合研究科 客員研究員	有元 佐賀恵	薬学
公認会計士	井上 信二	財務会計
岡山県立大学 学長	沖 陽子	水域環境管理学
岡山大学大学院 医歯薬学総合研究科 教授	神田 秀幸	公衆衛生学
岡山商科大学 経済学部 教授	佐井 至道	経済学
環境省中国四国地方環境事務所 所長	坂口 芳輝	環境行政
NPO法人岡山環境カウンセラー協会 事務局長	中平 徹也	NPO団体<欠席>
新見公立大学 健康科学部 看護学科 特任教授	山田 雅夫	病原ウイルス学

50音順

### (4) 評価対象

令和7～9年度に実施する試験研究計画（事前評価）

番号	課題名	担当
1	大気環境モニタリング体制の強化に関する研究【新規】	大気科
2	児島湖における水質改善のための実態把握【一部新規】	水質科
3	水質汚濁事象に係る原因究明に関する調査【新規】	
4	岡山県における薬剤耐性菌に関する基礎調査【新規】	細菌科
5	ウイルス・リケッチア感染症の包括的流行疫学に関する研究【継続】	ウイルス科
6	食品の健康被害の防止に関する研究【一部新規】	衛生化学科

## 2 課題別の評価結果

<p><b>【評価の凡例】</b></p> <p>○総合評価以外</p> <p>5：極めて優れている</p> <p>4：優れている</p> <p>3：普通</p> <p>2：改善すべき</p> <p>1：劣っている</p> <p>○総合評価</p> <p>5：優先的に実施することが適当</p> <p>4：実施することが適当</p> <p>3：計画等を改善して実施することが適当</p> <p>2：実施の必要性が低い</p> <p>1：計画等を見直して再評価を受けることが必要</p>
--

### (1) 大気環境モニタリング体制の強化に関する研究【新規】

(環境科学部大気科)

課題の概要	突発的に生じるPM2.5の高濃度事象の際にも成分分析を可能にし、高濃度事象の要因の解析に活用する。						
評価結果	区分	5点	4点	3点	2点	1点	平均
	必要性		7人				4.0
	有効性		6人	1人			3.9
	効率性・妥当性		6人	1人			3.9
	総合評価		7人				4.0
助言・指摘事項等	<p>テープろ紙の活用による自動化サンプル採取は、効率的なモニタリング体制の強化に通じることから、高く評価できる。</p> <p>一方で、テープろ紙の活用が現行手法に変わりうるのか、性能比較等を行うとともに、成分分析にかかる費用について検討を行い、必要であれば機器の更新についても進めるべきである。</p> <p>野焼きなどの散発的な事象が大気に与える影響は、比較的短時間・高濃度で現れると思われるので、状況に応じたノウハウの蓄積を行うとともに、感度・精度の比較について、しっかり取り組んでいただきたい。</p>						

## (2) 児島湖における水質改善のための実態把握【一部新規】

(環境科学部水質科)

課題の概要	児島湖における難分解性有機物等の実態（採水地点及び水深等による違い）を把握して、発生源の推定を行うことにより、知見を蓄積するとともに、湖沼計画の遂行の一助と今後の児島湖の水質改善方策の検討に寄与する。						
評価結果	区分	5点	4点	3点	2点	1点	平均
	必要性	2人	4人	1人			4.1
	有効性		3人	4人			3.4
	効率性・妥当性		3人	4人			3.4
	総合評価		5人	2人			3.7
助言・指摘事項等	<p>児島湖の水質に関する研究及び取組は長年行われてきており、必要な研究と思われるが、行政ニーズと県民ニーズを分けた記載や新規性・独創性に係る具体的な記載があった方が、より好ましいと考える。</p> <p>本課題で得られた結果を受けて、どういった対策につながり得るのか、その後の施策まで視野に入れた明確なビジョンを示すことで、これまでできていなかった対策につながることを期待するとともに、植物プランクトン等を起源とした発生源調査についても展開いただきたい。</p>						

## (3) 水質汚濁事象に係る原因究明に関する調査【新規】

(環境科学部水質科)

課題の概要	現状では特定が困難な水質汚濁事象に係る原因の特定手法を検討・開発する。						
評価結果	区分	5点	4点	3点	2点	1点	平均
	必要性		5人	2人			3.7
	有効性		1人	6人			3.1
	効率性・妥当性		2人	4人	1人		3.1
	総合評価		3人	4人			3.4
助言・指摘事項等	<p>河川等の発泡事象の発生、魚のへい死事象は、県民にとって環境の異常を示す指標として取り扱われ、原因究明と対策の必要性は高いと考える。</p> <p>一方で、溶存酸素は地点により偏りが大きく、相応の規模感の調査が必要と考えられることから、他県での事例収集を進めるとともに、実現可能性や成果の発展性を含めた、より具体的な計画を記載すべき。</p>						

#### (4) 岡山県における薬剤耐性菌に関する基礎調査【新規】

(保健科学部細菌科)

課題の概要	当県の耐性菌対策に資する基礎資料とするため、環境試料を対象とした耐性菌の実態調査を行う。						
評価結果	区分	5点	4点	3点	2点	1点	平均
	必要性	5人	2人				4.7
	有効性	2人	5人				4.3
	効率性・妥当性		7人				4.0
	総合評価	4人	3人				4.6
助言・指摘事項等	<p>特に人体の健康・医療を守るため、本課題の重要性は高く、緊要性について理解できることから、予算や対象規模の拡大が望まれる。</p> <p>可能であれば、他府県での研究調査結果等を十分検討するとともに、他機関・国等との連携により、研究を加速させていただきたい。</p>						

#### (5) ウイルス・リケッチア感染症の包括的流行疫学に関する研究【継続】

(保健科学部ウイルス科)

課題の概要	行政検査の効率化により、感染症の原因ウイルス・リケッチアの特定効率を向上する。また、地域全体の病原体の分布を把握・解析し、感染症の流行拡大防止や発生防止の一助とする。						
評価結果	区分	5点	4点	3点	2点	1点	平均
	必要性	2人	5人				4.3
	有効性	2人	3人	2人			4.0
	効率性・妥当性		7人				4.0
	総合評価	2人	5人				4.3
助言・指摘事項等	<p>マダニ媒介感染症のように、地域性があり岡山に多い疾病をテーマに設定したことは高く評価できるが、野生動物におけるウイルス感染・保有状況についても、将来的に計画に入れるべきと考える。</p> <p>また、成果の活用方法が非常に重要であると考え、県民への還元・啓発も視野に入れて取り組んでいただき、ウイルス等を「正しく恐れる」ため、有効な方法で成果をアピールされると良いと思う。</p> <p>3本柱のどれもが高い完成度・達成度になることを期待する。</p>						

(6) 食品の健康被害の防止に関する研究【一部新規】

(保健科学部衛生化学科)

<p>課題の概要</p>	<p>LC-MS/MSによる有毒植物の毒成分の分析法の開発及び遺伝子解析による毒キノコの種の同定法の導入・開発を実施し、食中毒発生時に迅速に対応できる体制を整備する。</p>						
<p>評価結果</p>	<p>区分</p>	<p>5点</p>	<p>4点</p>	<p>3点</p>	<p>2点</p>	<p>1点</p>	<p>平均</p>
	<p>必要性</p>	<p>2人</p>	<p>3人</p>	<p>2人</p>			<p>4.0</p>
	<p>有効性</p>	<p>1人</p>	<p>4人</p>	<p>2人</p>			<p>3.9</p>
	<p>効率性・妥当性</p>		<p>5人</p>	<p>2人</p>			<p>3.7</p>
	<p>総合評価</p>	<p>1人</p>	<p>5人</p>	<p>1人</p>			<p>4.0</p>
<p>助言・指摘事項等</p>	<p>基礎的な研究であるものの、新しい取組であると考えており、成果を期待している。 次のステージで良いので、県民への毒性植物への理解が進むよう、例えば有毒植物の見分けソフトの開発等、県民への普及啓発・成果還元に資するようにしていただきたい。</p>						

### 3 その他助言・指摘事項

- ・全体として、どの研究も県民ニーズに対応している素晴らしい研究であり、重要なテーマを選択されているものと思われる。
- ・これらが優先的に取り組むべきテーマであるのか、県の環境保健行政側からコメントがあると、より評価がしやすいと感じた。
- ・全体として少ない予算を有効に活用しながら、効果的な研究を実施しようとしているものと感じられることから、導入予定のない外部資金等の活用についても検討いただくとともに、センターが所有する設備・備品の更新が必要であれば、更新を強く要望する。
- ・課題への年間従事人数が少なく、人的資源が乏しいと思われ、限られた資源で研究を実施されているものと感じるとともに、研究技術の維持・スペシャリストを育てるという意味で、短期的な人事異動については問題があることから、より長期的な研究を続けられるよう、人事について配慮いただきたい。
- ・研究計画書として読む際、これまでに分かっている部分と分かっていない部分について明確に書くことが求められることから、その点について留意いただくことで、「行政・県民ニーズ」を踏まえた研究の「新規性、独創性」がより具体的に示されると考える。
- ・「継続」及び「一部新規」の場合、過去の成果報告に併せて、何が新たに加わったのか、説明いただくことで理解がさらに進むと考える。
- ・研究により得られた成果について、学会誌への投稿など、外部に対して、より積極的な発信を進めるとともに、外部（民間含め）機関との連携について検討されることを希望する。